

花園小 今週のピックアップ

平成29年
3月21日～
3月24日

先週の卒業式で6年生がいなくなった最後の1週間。3階がさびしくなりましたが、どの学級も最後のまとめや思い出作りの数日間を過ごしました。来年は、131名の1年生が入学してきます。みんな1学年上がって、心身ともに成長してくれた顔を4月に見せてくれるのを楽しみに待っています。

卒業式での校長先生の式辞を紹介します。

技術革新はめざましく、人工知能が将棋や囲碁の名人に勝ったというニュースを聞きます。また十数年後には、小売店販売員や一般事務員、セールスマンなど、現在の職業の半分はロボットを含む機械に取って代わられるということも聞きます。ペーパーテストの点数がよいだけでは、思うような職業に就くことが難しくなるとも聞きます。

そのような時代を生きていくために、どのような「心もち」が大切なのでしょう。先日読んだ新聞記事にヒントとなるものがありましたので紹介します。

手術のため入院した岡島さん。主治医の許可をもらい、1階のコンビニへ出かけました。とはいっても、激痛のため点滴棒を支えにゆっくりとしか歩けません。しばらくしてコンビニが見えました。いったん立ち止まり、首から下げたポシェットから小銭を取り出そうとしたそのとき、小銭入れを落としてしまいました。拾おうとしましたが、体と点滴棒には何本もチューブがつながっていてしゃがめません。助けを呼ぼうにも、診察時間が終わり病院内に人影がありません。

岡島さんが途方に暮れていると、そこへ杖をついたおばあさんが通りかかりました。ひどく腰が曲がっていて、歩くのもたいへんそうです。「さすがに、この人に頼むわけにはいかないなあ」と思いました。ところが、おばあさんは困っている様子を察し、近寄って小銭入れを拾おうとしてくれました。でも、おばあさんもしゃがめません。申し訳なくて「いいですよ、結構です」と言いましたが、おばあさんは何とか手を伸ばして拾おうとします。ついには杖を床に倒し、ペタンと座り込んで小銭入れを拾ってくれました。

おばあさんは岡島さんに小銭入れを差し出すと、杖で体を支えて「ドッコイショ」と立ち上がり、立ち去っていきました。
(2017.2.19 中日新聞『ほろほろ通信』に、藤堂が手を加えました)

いよいよ中学生です。自らの夢の実現に向け、今後も一歩ずつ成長していけるよう、そして将来の花園地区・半田市を背負っていけるよう、多くの人とのかかわりを大切にしながら、人として当たり前のことを当たり前にする人に成長してくれることを願います。

主のなくなった教室、さびしい気がします。



最後の思い出づくりにお楽しみ会をする学級が多いです。



6年生の先生が、下の学年で授業をしてくださいました。とても新鮮で、どの子もうれしそうでした。



